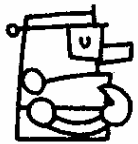


水酸化ナトリウム液を蒸発させると、何が残るの



水酸化ナトリウム液（水溶液）の水を蒸発させると、もとの水酸化ナトリウムが残るのさ。

水酸化ナトリウム液は、水酸化ナトリウムの固体をとかした水溶液

水酸化ナトリウム液は、水酸化ナトリウムという無色の固体を水にとかしてつくりまします。水酸化ナトリウム液を蒸発皿で蒸発させると、につまったこい液がまわりに飛び散り、とても危険なのでやってはいけません。こい水酸化ナトリウムはタンパク質をとかすので、皮ふなどにつくと危険です。衣服につくと、あながあくこともあります。

水酸化ナトリウム液を自然に蒸発させると、空気中の二酸化炭素を吸収して、別な物に変化します。だから、水酸化ナトリウム液を蒸発させると何が残るかを実験で調べるのは、小学生にはむずかしいのです。うまく蒸発できると、白い粉のような水酸化ナトリウムが残ります。食塩水やホウ酸水なども、蒸発させると、もとの固体である食塩やホウ酸のつぶ（結晶）が残ります。

気体がとけている塩酸やアンモニア水は、蒸発すると何も残らない

塩酸やアンモニア水などを蒸発皿に入れて熱すると、塩酸はつーんとした強いにおいがしてくるし、アンモニア水はアンモニアのにおいが強くしてきます。そして、蒸発皿の液体はなくなり、後には何も残りません。炭酸水は、熱するとさかんにあわがでて、蒸発皿はからになります。

塩酸は塩化水素、アンモニア水はアンモニア、炭酸水は二酸化炭素などの気体が水にとけている水溶液で、熱すると、水も、とけていた気体も出ていくのです。

